

「新規恒久施設の施設運営計画(中間のまとめ)」に対する主なご意見の概要と都の考え方

1 意見募集の方法

- (1) 募集期間 平成28年5月25日から6月8日まで
 (2) 意見の提出 郵送、ファクス、電子メール

2 意見募集の結果

- (1) 意見数 146件

対象施設	主な意見(要旨)	都の考え方
1 オリンピック アクアティクスセンター	《都民利用》 ・親子で楽しめる水泳教室を手ごろな料金で開いてほしい。 ・子供から高齢者、障害のある方までいろいろな方が参加するダンススイミングについて、今後具体的に進めてほしい。 ・健康増進事業等の同時複数実施が想定されるので、円滑な実施や危険防止の観点からブロックごとにマイク等を設置すべき。 ・専用の部屋を作り、託児所のように使用することで、家族や子供連れの方の利用増を図るべき。	・アクアティクスセンターは、全国、都内の未来のアスリートの晴れの舞台とするとともに、都民のための水泳場として、子どもから高齢者までスポーツや健康増進に取り組むことができる場としていきます。なお、健康増進事業等の詳細については、今後、選定する施設運営事業者とも協議のうえ検討していきます。
	《安全の確保》 ・救護室を設置し、緊急時に対応できるようにすることで、安心して利用できる環境にすべき。	・救護室を確保していきます。
	《施設の役割・連携》 ・東京辰巳国際水泳場との役割、連携の議論が必要。 ・東京辰巳国際水泳場について、アイススケートリンクに改修するなど検討してはどうか。	・東京辰巳国際水泳場については、オリンピックアクアティクスセンターとは異なる機能を有するスポーツ施設としての活用を検討しています。
2 海の森水上競技場	《競技利用の場》 ・ボート、カヌーの艇庫を十分に確保すべき。 ・夜間利用やナイター設備を検討すべき。	・大会後の活用を踏まえた適切な規模の艇庫を整備していきます。なお、夜間利用の可否については、今後選定する施設運営事業者とも協議のうえ検討していきます。
	《多様なスポーツ利用》 ・ドラゴンボートのための進水用のスロープや艇庫が必要。	・スロープや艇庫など、様々な水上スポーツができるよう施設整備を進めています。
	《水上スポーツ体験》 ・海の森水上競技場をフルに使うマリンスポーツを広げていくべき。	・広大で静穏な水域を生かし、様々な水上スポーツ、水上レジャーに親しむ機会を提供します。
	《交通アクセスの強化》 ・都バスの新ルートの開設やバス停の新設など公共交通機関での便利なアクセスが重要。 ・駐車場を多く作り、家族で1日楽しめるような場所にしてほしい。	・アクセス道路の整備、バス路線拡充の検討、駐車場・バス乗降場の整備など、アクセス強化に取り組んでいきます。
	《環境への配慮》 ・森と海がテーマの競技場を意識し、環境に配慮した施設にすべき。	・植栽、屋上緑化、内装の木質化など、環境に配慮した施設整備を進めています。
3 有明アリーナ	《仕様》 ・アイスホッケーの国際大会などが開催できる、国際規格に適合するスケートリンクを建設してほしい。 ・床を2層にし、木材床を入れ替えられる構造にし、スポーツ利用と併用しやすい構造にすべき。	・有明アリーナのメインアリーナは、多目的な利用を想定し、コンクリート床としています。スポーツやスケートでの利用時には、コンクリートの床の上に、仮設の木床やスケートリンクを設置することが可能です。
	《都民利用》 ・フィットネスジム利用者向けにレンタル事業(タオル・着替え・靴等)を検討すべき。	・レンタル事業等の詳細については、今後選定する施設運営事業者とも協議のうえ検討していきます。
	《施設の集客》 ・より多くの外国人に有明アリーナに来てもらうため、外国人が日本文化に触れてもらうための施設にしてほしい。	・文化イベント等の開催により、外国人を含め多くの人に親しんでいただける施設となるよう検討していきます。
	《交通アクセスの強化》 ・BRT経路の変更や大規模イベント時のシャトルバスなど、有明アリーナの交通利便性をアップさせるべき。 ・駐車場やコミュニティサイクルのポートを整備してほしい。	・大規模イベント時のシャトルバスなど、有明アリーナの交通利便性の向上について、引き続き、検討していきます。 ・法令等に基づき、施設規模に応じた適正な数の駐車場や駐輪場の整備を計画しています。コミュニティサイクルのポート等の詳細については、今後、地元区等と協議していきます。

対象施設	主な意見(要旨)	都の考え方
3 有明アリーナ	<p>《周辺との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の競技会場や商業施設と近接しているので双方向利用を目指すことが重要。 <p>《防災対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害発生時に、選手・観客等の安全確保が必要。 <p>《周辺住民への配慮》</p> <ul style="list-style-type: none"> コンサートなどの大規模イベントが開催された場合の音の問題や、訪れた人達の誘導、マナー確保など、近隣住民への影響を十分検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺施設との連携によって地域の活性化につながるよう、民間事業者の意見も聴きながら検討を進めています。 災害用備蓄倉庫や非常用電源装置を設置するなど、大規模スポーツ大会やイベント時に災害が発生した場合、選手・観客等の安全確保に対応できる設計としています。 大規模イベント開催時の音や観客の誘導などに配慮した設計(建物構造、配置、動線など)としています。 近隣住民の方々のご迷惑とならないよう観客の適切な誘導を行うなど、影響に十分配慮した運営に努めていきます。
4 カヌー・スラローム会場	<p>《競技利用の場》</p> <ul style="list-style-type: none"> カヌーの保管場所が必要。 葛西臨海公園以外に、競技会場にも運営側の駐車スペースが必要。 <p>《都民利用》</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民プールとして利用できるようにすべき。 カヌー・スラローム会場をフルに使うマリンスポーツを広げていくべき。 企業向けチームビルディングのための貸出、指導等を検討すべき。 <p>《住民・地域団体との協働》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元で活動しているNPO団体等が主体となった運営が必要。 <p>《周辺との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> 葛西臨海公園を、家族全員が1日楽しめるようにしてほしい。 シャワー・コインロッカーを整備し、葛西臨海公園の海水浴と連携を図るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 大会後の活用を踏まえた適切な規模の艇庫や駐車場の整備を進めていきます。 水上スポーツ体験やラフティング等の水上レジャーの機会を提供していくほか、企業研修や水難救助訓練など、様々なニーズに応える多目的な利用を図っていきます。 民間の活力やノウハウを最大限生かし、効率的な・効果的な施設運営を行っていきます。施設運営者は公募により選定する予定です。 葛西臨海公園、葛西臨海公園と連携した取組を進めていきます。また、シャワー・ロッカーの整備について検討しています。
5 その他全般	<p>《利便性の向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿所・レストラン・カフェ等の整備、Wi-Fi環境の整備など利便性の向上を図るべき。 ランニングコースの設定に当たっては、快適にランニングを楽しめる機能を導入してもらいたい。 <p>《交通アクセスの強化》</p> <ul style="list-style-type: none"> レンタサイクルやバスなど、最寄り駅と施設をつなぐ足が必要。 各施設を定期的に循環するシャトルバス等を検討してほしい。 <p>《教育との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> アフタースクールの利用、青少年育成、環境教育等での利用を行うべき。 <p>《周辺との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺の環境を、競技会場周辺と一体的に整備し新しいにぎわい創出の場を作るべき。 スポーツ後は、近隣の商店街に誘導するなど、ベイエリア帯が潤う仕組みも重要。 <p>《セキュリティ対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> フェンス、立入禁止区域の設定などのセキュリティ対策が重要。 <p>《バリアフリー》</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者など配慮が必要な方のための、トイレ・エレベーター・案内等の設備、駐車場等のスペース、多言語化の仕組の充実。 障害を理解している職員等を配置し、相談窓口を設けるなど、障害者に配慮した施設運営をしてほしい。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> 近くの人ばかりでなく、多摩の人も行きたくなるような魅力的な施設にしてほしい。 一年を通して、出来るだけ多くの人に使ってもらい、維持費がかかからないようにするべき。にぎわいのための投資はやるべき。 採算性を重視するあまり、スポーツ施設としての本来の機能を損なわないようにすべき。ドーピング検査用の部屋やトイレが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 海の森水上競技場に合宿所施設を設けます。また、各施設においてレストラン・カフェなどに対応できるスペースを可能な限り確保することとしています。 ランニングコースを設定する場合、ランナーが施設の更衣室やシャワーを利用できるよう配慮します。 バス路線の拡充・シャトルバスの導入検討など、新規恒久施設の交通利便性の向上に向けた取組を進めていきます。 新規恒久施設は、青少年を対象としたスポーツ教室やスポーツ体験ができる施設とするよう検討しています。 新規恒久施設に隣接する公園やスポーツ施設、商業施設などとの連携を進め、面的に広がりのあるレガシーの創出を目指します。 施設ごとに、監視カメラやフェンスなど、適切なセキュリティ対策を講じていきます。 新規恒久施設の施設内容は、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ整備していきます。障害者に配慮した施設運営に努めていきます。 新規恒久施設は、東京臨海部における新たな一大スポーツ拠点を形成し、都民、国民が多様なスポーツを楽しめる場を提供していきます。 民間の活力やノウハウを最大限生かし、効率的・効果的な施設運営を行うとともに、多くの都民に利用していただけるよう、魅力ある施設としていきます。